



函館山から見た日の出

●特集 21世紀への道標Ⅱ

函館大学の新しい表情 自己改革からはじまる大学改革

特別寄稿 若人よ 夢を語ろう

●第18回海外研修旅行

ロンドン・マドリッド 二都物語を体験して

●入試最前線

「選択」から「相互理解」へ—AO入試導入

●就職概況

「就職に強い函大」ブランドの維持・強化

函館大学



函館大学校歌

親潮速き

作詩 土田秀雄
作曲 館野信平

一、親潮速き海峡を とどろと寄する荒波も
 乗り越え行かんひたすらに 北極星を仰ぎつつ
 真理の海に棹させは 黙示ひらけて人の世の
 まことの平和あらわれん お、これぞこれ友垣を
 一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

二、總並みも霞む大平原 鷗群れ飛ぶ北の海
 尽きせぬ富を拓きつつ 担う文化の豊けさよ
 恵み傾ちてもろ人と 手に手をとらば人の世の
 樂園ここに開けなん お、これぞこれ友垣を
 一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

三、狭霧晴れゆく蝦夷松の 林のかなた郭公鳴く
 思案の朝を踏みゆけば 心開くる思いあり
 友とし学ぶ幸ありて 誠に結ぶ学園の
 道をひとすしに進まん お、これぞこれ友垣を
 一つに結ぶ望みなれ 讀えんかなや我等が母校

12月までの主な日程

- 7月 5日 派遣留学生許可書交付式
受入留学生修了式
- 7月11日 夏季休業開始 (~8/31)
- 7月16日 協学会地区懇談会 (函館)
- 7月17日 函館大学第19回海外研修旅行 (~7/26・アメリカ)
- 7月18日 協学会地区懇談会 (室蘭・青森)
- 7月19日 協学会地区懇談会 (旭川・仙台)
- 7月20日 協学会地区懇談会 (札幌・東京)
- 7月21日 協学会地区懇談会 (帯広・大阪)
- 8月23日 公務員受験対策講座 (夏期~8/31)
- 9月 1日 前期授業再開
3年次個人面談開始 (~10/31)
- 9月12日 前期授業終了
- 9月13日 前期末試験開始 (~9/29)
- 9月19日 学園創立記念日
- 10月 1日 後期授業開始
就職内定公示
- 10月 2日 3年次第1回就職ガイダンス (以後毎週月曜日)
- 10月12日 大学祭準備
- 10月13日 大学祭 (~10/16)
- 10月17日 大学祭後始末
- 12月 9日 就職合宿セミナー 於: グリーンピア大沼 (~12/10)
- 12月11日 冬季休業開始 (~1/16)
就職懇談会 (札幌)
- 12月13日 第20回函館大学海外研修旅行 (~12/22・ヨーロッパ)
就職懇談会 (~12/14・東京)

函館大学
広報誌編集事務局

特集 21世紀への道標Ⅱ

函館大学の 新しき表情

函館大学では、他の大学では類をみないほど、多方面から多彩な客員教授・特別講師をお招きしています。それぞれの分野の第一線で活躍されてきた方々の、豊富な経験と時代を洞察する鋭い眼が、講義に反映されています。それだけに、現代社会の動きを肌で感じる講義となっています。函館大学のめざす、独自の・個性的な教育に共感・協力して下さっている客員教授・特別講師の中から、六名の方に学生へのメッセージをいただきました。



芸能社会の授業とは…

●客員教授 梨元 勝

(芸能レポーター・コメンテーター)「芸能社会学」担当

10月から初めて授業を持つことになり、私も新入生の気持ちで夢ふくらませていきます。芸能界の出来事からその時の社会を見、分析する、これを基本にしたいと思っています。社会は日々変化して、正に21世紀に向かって一直線です。社会の一角に位置する芸能界、その変化もまた一直線…。芸能界の人間ドラマを分析しながら、それぞれの時代を見たいと考えます。20世紀末、現代から逆に戻る形で年間の授業にします。

は、正にその時々々の社会をよく捕らえています。また、噂の原点、伝わり方などは正に情報社会学だと私は再認識しました。とにかく、飽きない、興味、関心の持てる楽しい授業にしていきたいと願っています。その中から、いろんなことを吸収していただければ一番の幸せです。よろしく。

ぼるとさびえ

「ぼるとさびえ」は、ラテン語のポルトス(港や門を意味します)とサビエンティス(知恵や英知を意味します)を参考にしてつけられた題名です。皆様のご支援と叱咤激励により、親しみやすさのなかにも、大学らしい英知の香を漂わせる誌面づくりを心がけてまいります。



特集 **21世紀への道標Ⅱ**

函館大学の新しき表情……………1

特別寄稿 若人よ 夢を語ろう 客員教授 永野 泰道……………4

対 談 自己改革からはじまる大学改革
野又 肇 理事長 + 河村 博旨 学長……………6

参加学生が語る第18回函館大学海外研修旅行
ロンドン・マドリッド 二都物語を体験して……………8

入試最前線
「選択」から「相互理解」へ—AO入試導入……………10

平成12年度就職戦線の見通し
「就職に強い函大」ブランドの維持・強化……………12

人生の先輩から 客員教授 石本 一詔……………14

北から南から 出身校紹介……………15

研究室から……………16

著書紹介……………17

ゼミナール訪問……………18

協学会だより……………19

コラム「話題の窓」「環境問題の変質」教授 上平 幸好……………19

教職員プロフィール……………20

函館 A Sketch of Hakodate……………22
私の函館散歩、いい店食べ歩き

クラブclose-up 軟式庭球部……………24

クラブ紹介 準硬式野球部 吹奏楽同好会……………25

公開講座だより……………26

エッセイ 心つれづれ 学長 河村 博旨……………27

キャンパスレポート……………28

野又学園プロフィール
函館大学付属有斗高等学校……………29



故きを知り今を学ぼう

今学期から「映像ビジネス論」を担当する事になりました。情報発信メディアの驚くべき進化が、今や家庭の中で大量の映像を氾濫させ、むしろ情報過多に悩ませられていると言ってもいいでしょう。

これらの映像の創造から発信までを芸術論や技術論の立場でなく、ビジネスとして検証してみようという試みは極めて独創的、かつ今日的課題であります。

デジタル技術の進歩は、写真、映画、TV、ビデオ、PCからゲームソフトと、限りなく裾野を広げ続け、しかもその映像は日進月歩の速さで美しさを増幅しています。

大学が体系的学問の涵養を第一義とするのは当然の事。ただ実社会の実動があるがまま学んでもらい、



●客員教授 山内 鉄也(映画監督・シナリオライター)
「映像ビジネス論」担当



●特別講師 光末 香恵美 白井 有里子
合谷 美江 岡田 幸子
(全日空客室乗務員・客室本部教育訓練部インストラクター)「ビジネスマナー」担当



●客員教授 島村 矩生
(元NHKアメリカ総局長)
「マスコミ情報論II」担当

明治の小学校応援歌

二十一世紀というと、未来のことをいわれる人が多いので、私はあえて過去を振り返ってみます。

百年前、明治の三十年代に小学校の運動会で歌う応援歌「二十世紀を迎える歌」ができました。一番と二番の歌詞は次の通りです。「二十世紀の始まる世界 われら子供のつとめは重し 無病の体に無量の心 鍛えよ体をまず第一に。二十世紀の明けたる世界 己が全力つくしたう えで 勝てば喝采負けても拍手 露

も悪しざる振る舞いするな。」健康な体に大きな心をもち、全力をつくしてフェアプレーに徹せよと教えた、この応援歌は、心ない太平洋戦争の喧騒にのみ込まれ、忘れ去られてしまいました。しかも、この歌が子供達に呼びかけた精神こそ、日露戦争の勝利で諸外国の尊敬を勝ち得た源泉で、二十一世紀を迎える現代の日本に最も求められている生活信条、行動指針ではないでしょうか。古くて新しいテーマです。

人生の参考になるマナーを

ただ社会人である自分たちが「学生時代にこんなことを学んでいたら役に立っただろうな」という知識を、「こんな講義だったら楽しいだろうな」という手法で「身につくように」「一緒に楽しく」楽しんでいるというのが実態です。

今時の？若き大学生相手とあってかなり不安でしたが、そんな心配は無用でした。数少ない女子学生の熱心な態度や、照れながらも一生懸命に実習してくれている男子学生の姿を目の当たりにして、函館大学に来ることができて良かったと実感しています。短い期間ではありますが、必ず今後の人生に参考になる内容であると確信していますので、何かひとつだけでも学びとっていただけたらと思っています。

「私達が大学生に教えられることなどあるのだろうか？」昨年の夏、講師の依頼を承った時の感想です。私どもは、専門家ではありませんので高度な学問の講義をすることはできません。

参議院憲法調査会所属委員として一言。

二十一世紀はもう間近か。新しい時代にどのような内容を持つ憲法がふさわしいか、若い人たちの間で大いに議論を戦わせ、その結果を踏まえてこの国の未来が決められるべきではないかと思っている。

現行憲法が制定されて五十年余りが過ぎている。憲法は国民主権、人権尊重、平和主義の理念を高々と掲げ、旧憲法体制から脱却して新しい国家建設に基本的役割を果たしてきた。

しかし二十一世紀という新しい時代を迎えるに当り、五十年という歳月の流れを無視することは許されない。第九条の戦争放棄条項に始まり、憲法全体にわたって広く国民の間で活発な議論の展開が望まれる。そしてその議論の中心となるのは新しい国家の担い手となる若い人たち

以外には在り得ない。諸君らの間で大いに論じ自らの結論を出してほしい。私の講義もまたこの問題を取り上げることから始めたい。

憲法改正について議論しよう

●客員教授 佐藤 道夫(参議院議員)
「法学概論」担当



函館から新しい世紀への医療・医学のあるべき姿を

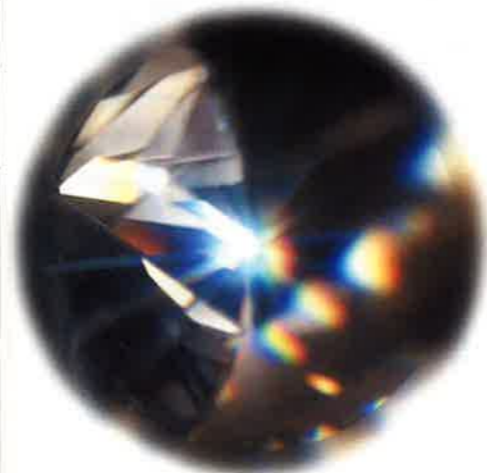
●客員教授 保阪 正康(ノンフィクション作家・評論家)
「医療ビジネス論」担当



二十世紀の終わりの年に函館大学の教壇に立つことに縁を感じています。近代日本の出発点でもある函館で、二十世紀から二十一世紀への橋わたしの意味を考える。——とくに私の担当する「医療ビジネス論」は、これからもっとも検証されなければならぬ分野といえます。

医療技術と医学知識の進歩によって、現在の医療環境は大きく変容しています。実際に医療・医学は人間の生命倫理にどこまで関与できるのか、医療に携わるスタッフには何が求められているか、検証しなければならぬ問題は山積しています。医療・医学への社会的考察が必要などとき、改めて過去、現在、未来の流れのなかで日本の医療・医学を捉えることが必要になります。

函館の地から、学生諸君とともに考えながら、新しい世紀への医療・医学のあるべき姿を模索し、それを全国的に発信していきたいというのが、私の望みです。



●特別講師一覧

※(前期)4月~9月、(後期)10月~3月、表示なきものは全期

氏名	氏名	学年	前職・現職
佐藤 道夫	「法学概論(犯罪論等)」(後期)	全学年	参議院議員、元札幌高等検察庁検事長
梶屋 雄一	「経済刑法」	3年	函館地方検察庁検事
島田 征夫	「国際法」(前期)	3年	早稲田大学法学部教授
佐藤 憲一	「商法総論」	2年	弁護士
田中 三夫	「手形法・小切手法」・「専門ゼミナール」	3年	(株)みちのく銀行管理部顧問 ※本学教授(2000.4.1~)
横山 彰	「経済政策」	3年	中央大学総合政策学部教授、日本経済政策学会常任理事
鎌田 孝男	「不動産経済学」・「専門ゼミナール」	3年	三菱信託銀行(株) 主席不動産鑑定コンサルタント・不動産鑑定士
石本 一詔	「金融論」	3年	名古屋証券取引所専務理事、元日本銀行考査役
佐原 正三	「実践的金融論」(前期)	3年	函館信用金庫理事長・元日本銀行
沖山 良夫	「証券論」	3年	安田投資顧問(株) 市場開発本部長、元S.G.山一アセット(株) 専務取締役
磯村 元史	「証券経済論」・「専門ゼミナール」	3年	洋伸不動産(株) 相談役、元東洋信託銀行(株) 副社長
藤原 博之	「生命保険論」	3年	三井生命保険(相) 法人業務部門部長
安積 正彦	「損害保険論」	3年	東京海上火災保険(株) 損害サービス課長
永野 泰道	「日本経営特論」・「経営財務論」(後期)	3年	丸宏大華証券(株) 相談役、元新日本製鐵(株) 参与
福士 隆三	「中小企業論」・「専門ゼミナール」	3年	(財)青森地域社会研究所常務理事、元(株)青森銀行調査部長
吉野源太郎	「マスコミ情報論I」(前期)	全学年	日本経済新聞社論説委員
島村 矩生	「マスコミ情報論II」(後期)	全学年	元NHKアメリカ総局長
小林 裕幸	「実践コミュニケーション論」	全学年	元STV函館放送局長、アナウンス部長
梨元 勝	「芸能社会学」(後期)	全学年	芸能リポーター・コメンテーター
山内 鉄也	「映像ビジネス論」	3年	映画監督(「水戸黄門」シリーズほか)・シナリオライター・日本映画監督協会理事
大野 俊文	「音響ビジネス論」	3年	元日本コロムビア(株) 国際部長、ポピュラー・クラシック制作部長
浜田 正行	「レジャービジネス論」	3年	元(株)東京ドーム副社長
橋本 保雄	「ホテルビジネス論」	3年	(株)ホテルオークラ顧問・元副社長
保阪 正康	「医療ビジネス論」(後期)	3年	ノンフィクション作家・評論家
太田 博史	「実践セールス論I」(前期)	全学年	野村證券(株) 函館支店長
山村 幸生	「実践セールス論II」(後期)	全学年	函館三菱ふそう自動車販売(株) 社長
蓮間 従道	「秘書概論」(前期)	3年	東洋信託文化財団事務局長、元東洋信託銀行(株) 取締役(元秘書役)
桜田 清光	「秘書概論」(後期)	3年	(株)みちのく銀行常務取締役(前秘書室長)
光末香恵 合谷 美江 白井有里子 岡田 幸子	「ビジネスマナー」(前期)	全学年	全日本空輸(株) 客室乗務員・客室本部教育訓練部インストラクター
名取 晃一	「税務会計論」	3年	税理士
奥山 昌弘	「会計学演習(簿記)」	2年	税理士
渡辺 功	シーズン制体育「テニス」(集中)	2年	NPOグローバル・スポーツ・アライアンス理事、元デビス・カップ杯選手
三上 敦史	シーズン制体育「スポーツ・フィッシング」(集中)	2年	フィッシングライター、釣り教室インストラクター

蓮間従道先生、去る6月3日、病にて急逝されました。〈合掌〉

(順不同・敬称略)

特別寄稿

「若人よ
夢を語ろう」



客員教授
永野 泰道
丸宏大華証券相談役
(元新日本製鐵株参与
大分製鉄所副所長)
「日本経営特論」
「経営財務論」担当

今の若い人たちに期待する最大のもは、夢を語って欲しいことです。もちろん理想の追求でもよいし、志(こころざし)を持つと言ひたむきな使命感でもよいのです。ただ漫然と豊かさの中で過ごし、何か将来の不安を感じているのでは情けありません。

積極的に目標を持つことにより、来るべき次の世代は今の私たちの世代を大きく越え輝いたものになると考えます。

函大生の諸君は北海道の雄大な自然の下に開拓者精神を受け継いでいます。しかも基礎の学問と事業の実務がうまく組み合わせられた、先進的なカリキュラムを持ち少数で討議できる場があります。これからの企業・産業・経済界が最も必要とする人材を育てる環境は充分あります。誰もが夢を持ちそれを実現させ未来を切り拓いて欲しいと思います。

これからの時代に生きる心構

えを述べます。

時代感覚を持つ。

その時代を律する思想を理解し時代の動く方向に対する感受性を高めたものです。

現代の子です。特に現代のように時間が速く流れ、世界の同時性が強まっているのでなおさらです。これから21世紀を迎え、どう新しい時代に対処するか、個人も企業も国家もその位置付けを明確にしておかねばなりません。

漫然と過ごしていればただ時間が経過するだけで、受け身の過ごし方になります。時代感覚を持つということは現在及び将来を積極的に生きるために必要なことです。

特にリーダーは先見性に優れていることが要件と言われています。現在に対処する手段は過去の反省から出しますが、将来を見据えて対処することで自信

ある決断ができるのだと思います。時代に遅れば正に陳腐で、すし、早ければ理解されません。ただ時の流れが必ずしも妥当なものとは限らないことがあります。しかし行き過ぎはやがて修正されます。

視野を広くする。

自分の立場がどのようなところにあるかを認識することを含みます。要するにいろいろな見方をするといいことです。世の中の物事の動きが複雑になり単純ではないからです。

社員研修で「ひとつ上の立場で考える」ということを話すことがあります。そうすると自分のやっていることの評価がよくなります。「複眼でみる」とも言います。一つの見方でなく、別の見方もあるし、その場合どう判断できるかということです。世の中に相反することわざがあるのも複眼の重要性を示しています。相手

の立場で考えよともよく言われます。上司・同僚・部下のつきあい、あるいは取引先についても同じです。

現在はグローバルの視点が欠かせません。会計基準が国際化しました。I・T化が進めばこれまたグローバルで少なくともその効用・安全性は最小限理解しておく必要があります。

自分の目標をもつ。

夢を語ることも良い。理想を追求することも良い。自分の意欲・自分の意志をはっきり持つことです。

これからの日本是个の時代と言われています。自主責任の時代に入ります。個の確立は意志を明確にすることです。明確な使命感を持つには、これは「志」といわれるものになります。

今は豊かな時代になり、欲すればすぐ手に入るため物的目標を持つ人が少なくなりましたが、

未知への挑戦はいくらでもできます。たとえば宇宙へ目を向ける、海底もそうです。古い歴史を研究する、難病を克服するなどいくらでもあります。

21世紀日本再生の第一は、若い人達がいろいろなニーズをもとにビジョンを持ちそれを具体的に追求することから始まります。そうすることにより、次の世代が私たちの世代を越えて発展します。

謙虚であれ。

21世紀の日本は世界の大国でありつづけていると思いが、ひとりひとりの行動が謙虚さを失わぬようにしたいと考えます。それが日本全体の行動になれば結局世界から尊敬を勝ち得ます。

パプルの発生もジャパン・アズ・ナンパーワンと自ら慢心したために起こりました。

武田信玄は「戦勝は五分をもつて最上とす」と言っています。配下の軍団が緊張感を失わないようにさせる戒めです。

「初心忘れるべからず」もよい言葉です。「隅を照らす」小さな存在でも世の中の役に立つことに徹したいと思えます。

最後に「やさしさ」について述べます。人に対するいたわりですが「やさしきものゆなれ」と言われたように昔から武士の一つのあり方でした。謙虚さと同じように持たたい心情です。



野又 肇 理事長

野又学園理事長 野又 肇 + 函館大学学長 河村 博旨

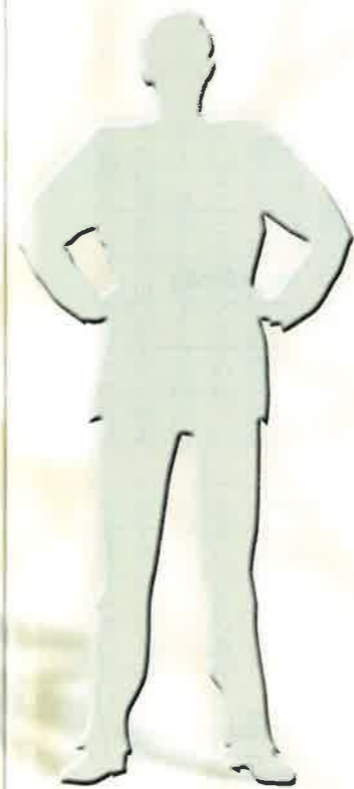


河村 博旨 学長

自己改革からはじまる 大学改革

二十一世紀へ挑戦する ベンチャー・ユニバーシティ

いま「ベンチャー・ユニバーシティ」をテーマに改革に取り組む函館大学。その根拠となる理念と、二十一世紀の函館大学像を、理事長と学長が熱く語り合います。



函館大学だからできることを

河村 本学の大きな特徴は、多方面から一流の方々に講師に招いたユニークな科目ですね。今年度から特別講師をお願いしている横山彰先生（中央大学総合政策学部教授）も、非常にユニークな内容で興味深いとおっしゃってました。例えば、中央大学のような規模の大きな大学では、講座を一つ開設するだけでも、難しいところがあるらしいですね。しかし、函館大学は、「ベンチャー・ユニバーシティ」として、小規模だからできる高度で独創的な大学像をめざし、新しい領域に果敢にチャレンジできるわけです。

野又 今年度から開設した「芸能社会学」や「映像ビジネス論」などは、科目として認知されてい

るわけではないですから、従来の発想ではそれらを科目として取り上げる大学はないでしょう。しかし、商学部は生きた企業を対象としているわけですから、時代の動きに即していなければなりません。既に科目と確立された学問というのは、過去のものを追っているわけです。それでは、生きた企業学とは言えません。確かに「ベンチャー」冒険的ではありますが、生きた企業活動をどう取り上げていくかが商学部のテーマであり、そこに函館大学ならではの個性が生まれてきます。

教授法も、旧態依然ではダメなんです。インターネットをはじめ、マルチメディアを活用するなどして変わっていかねばなら

ない。インターネットなどで講義が公開されている例もあるように、知識を得るためには大学へ来なくても済む時代がきます。ただ、知識を詰め込むだけでは、独りよがりの理論に陥ってしまいます。そこで大事なのが、議論を戦わせながら、他人の価値を認め合い、そして協同して工夫し創造していく、そうした議論の場、切磋琢磨の場が大学です。人と人のコミュニケーションがあるか

らこそ、教育なんです。函館大学は、学生数二千、三百人の単科大学ですから、人と密接に触れ合うチャンスがたくさんあります。そのチャンスを、学生にはぜひ活かしてほしい。本学の建学の精神は、人間教育と職業教育を標榜していますから、まさにこれからの時代に求められる教育であり、真価が問われてくるのだと思っています。

河村 これは日本IBMの椎名社長が私大協会の総会で述べられたことですが、世界中に広がるIBM現地法人の社長会議はテレビでできるんですね。だけど、いくら会議をやっても信頼関係がないと意味はない、とおっしゃいました。つまり、機械ができることじゃない、人間だからできることをきちんとして人間が求められているのです。信頼、人望などは機械からは生まれてこないんです。

ついているのです。一方日本では、行政・経済・学界に人材の流動性はなく、その分野のことしか分からない人間ばかりなのです。そうじゃなくて、どの分野でも自分の知識と感性を活かせる人材を育てる、それに私は挑戦したい。企業人の方々の豊富な経験、それを学者が理論にどう結びつけられるのか、それをお互いに行っていければ素晴らしいことで、それこそ学生に生きた学問を提供できることだと思います。

実践と理論の融合

野又 教員と学生の信頼関係が言えは、大事なものはいっしょに学ぶという姿勢です。感性はむしろ若い人の方が優れているんです。教員は豊富な知識経験を学生に教えながら、学生から感性を学ばなければならぬ。その中から何が真実かを探る、その過程を考え共に努力するのが教育だと

思うんです。いままでの教育は、教師がいままで学んできたものを教えるというスタイルでしたが、これからはそうではなくて学び方を教えていくことだと思っております。函館大学が特別講師に招いている各方面の方々も、いままでの発想では実現しなかったことです。例えば、その人の学歴はどうだ、研究業績はどうだ、教員歴はあるのか、そんなことを問うていたんですね。しかし、長年その業界の第一線で活躍してきた人には、現実的な知識、知恵があるのです。その実践知識と理論を融合させようしているのが、函

河村 例えば、コンピュータのハード・ソフトを研究している人はたくさんいます。だけれども、コンピュータ業界がどうなっているのか、外国と比べてどうなのか、という研究をしている教授は少ないんです。ましてやマスコミ業界は、レジャー業界は、芸能界は今どう動いているのかを、産業論的・経営学的に研究している人はいない。だからこそ、現場で実際に働いている企業人から、現状を教えてもらう必要があるのです。

河村 私たち教える立場にいるものとしては、使命感が大事だと思っております。次の世代の人類社会を担う若者を育てることは、大変尊いことなんだという使命感です。その意識も、もういちどわれわれは確認したいですね。それと、今の日本は横並び意識が強くて、初めてのことに抵抗感が強いのです。でも本学では、本当にこれまでの日本の大学にな



野又 アメリカでは大統領が替わると、その下にいた行政スタッフも入れ替わりますね。その人たちが経済界に行ったり、学界に行ったりします。また逆に、経済界から行政界に移る人もいます。つまり人材が非常に流動的で、どの分野でも通用する能力を持

野又 自己変革しなければ進歩はないんです。従来どおりのことをやる、それは停滞であり、停滞は衰退なんです。だからこそ函館大学は、自らを変革し、そして進歩し、日本のどこにもない特色ある大学づくりに挑戦していきます。

野又 自己変革しなければ進歩はないんです。従来どおりのことをやる、それは停滞であり、停滞は衰退なんです。だからこそ函館大学は、自らを変革し、そして進歩し、日本のどこにもない特色ある大学づくりに挑戦していきます。

ロンドン・マドリッド 二都物語を体験して

参加学生が語る第18回函館大学海外研修旅行

昨年の12月13日～22日の10日間、「第18回函館大学海外研修旅行」が実施されました。この海外研修には、一年生から四年生までの計39名が参加し、イギリス・ロンドンとスペイン・マドリッドの二都市を見学。参加した学生たちは、それぞれに新しい視野や認識を持ち帰ったようです。



■出席者

司会/助教 高橋 真 (団長)
白石 良 (二年・函館大学付属有斗高校出身)
北 康彦 (三年・兵庫県・滝川第二高校出身)
亀田 諭 (三年・栃木県・作新学院高等部高校出身)
山本絵里子 (三年・函館大学付属柏稜高校出身)
兼平 伸也 (四年・函館北高校出身)



北 康彦くん



山本 絵里子さん



白石 良くん

高橋 ■この度の海外研修旅行では、どのような感想や印象を持ちましたか。はじめに、初めての海外旅行だという人に話してもらいます。

亀田 ■周りの景色がまるで違うことが、まず大きな驚きでした。英語を使ってみて、何とか通じたときはうれしかったですね。

兼平 ■初めての外国で不安がありました。実際には安全な感じに思えました。

白石 ■僕は、すごく楽しい海外旅行を満喫しました。

高橋 ■海外旅行経験者で、前の旅行と違うと感じた所はありますか。

山本 ■ハワイに行ったことがありますが、ハワイは日本語が通じますが、今回は自分の英語力のなさを実感しました。

北 ■シンガポールとマレーシアは、アジアや中国の人が多く、すごい親近感がありました。ヨーロッパ人は顔も全然違うし、多分考え方も違うと思います。

高橋 ■海外旅行経験者で、前の旅行と違うと感じた所はありますか。

山本 ■ハワイに行ったことがありますが、ハワイは日本語が通じますが、今回は自分の英語力のなさを実感しました。

北 ■シンガポールとマレーシアは、アジアや中国の人が多く、すごい親近感がありました。ヨーロッパ人は顔も全然違うし、多分考え方も違うと思います。

高橋 ■海外旅行経験者で、前の旅行と違うと感じた所はありますか。

山本 ■ハワイに行ったことがありますが、ハワイは日本語が通じますが、今回は自分の英語力のなさを実感しました。

北 ■シンガポールとマレーシアは、アジアや中国の人が多く、すごい親近感がありました。ヨーロッパ人は顔も全然違うし、多分考え方も違うと思います。

高橋 ■イギリスとスペイン二つの国を比べてみて、どう感じましたか。

亀田 ■ロンドンは、都会という感じでしたが、スペインは、少し離れるともう郊外という感じでした。

兼平 ■スペインの方はのりがいいが、イギリス人は格式が高いとかというイメージを持ちました。

白石 ■スペインの人達は、フラメンコとかの伝統があり、すごく陽気な人ばかりでしたが、ロンドンの人はどちらかというと冷たいというか、そんな気がしました。

山本 ■ロンドンには都会的な感じはします。スペインでは、田園風景が素晴らしかったです。

北 ■街の中で気づいたことですが、ロンドンの人は紳士という考え方があるのか、クラクション

兼平 ■スペインの方はのりがいいが、イギリス人は格式が高いとかというイメージを持ちました。

白石 ■スペインの人達は、フラメンコとかの伝統があり、すごく陽気な人ばかりでしたが、ロンドンの人はどちらかというと冷たいというか、そんな気がしました。

山本 ■ロンドンには都会的な感じはします。スペインでは、田園風景が素晴らしかったです。

北 ■街の中で気づいたことですが、ロンドンの人は紳士という考え方があるのか、クラクション

兼平 ■スペインの方はのりがいいが、イギリス人は格式が高いとかというイメージを持ちました。

白石 ■スペインの人達は、フラメンコとかの伝統があり、すごく陽気な人ばかりでしたが、ロンドンの人はどちらかというと冷たいというか、そんな気がしました。

山本 ■ロンドンには都会的な感じはします。スペインでは、田園風景が素晴らしかったです。

北 ■街の中で気づいたことですが、ロンドンの人は紳士という考え方があるのか、クラクション



助教 高橋 真



世界を見て、日本を 自分を見つめ直す

高橋 ■大学の海外研修に期待すること、またこうしてほしいなということやアドバイスなどがあれば、言って下さい。今年は夏がアメリカで、ロサンゼルスとラスベガ

ら花が多い国オランダへ行ってみたいと思いました。

兼平 ■南米に行ってみたくちよつと危険だと思いましたが、実際どのように危険か大変か自分の目で見て確かめたいです。

白石 ■ロンドンとマドリッドにもう一度行ってみたい。一度行った場所でも、いろいろなことを経験してから行くのでは随分と違うと思うんです。

山本 ■私はアジアの方に比べてみたいですね。アジアの文化などはよく分かりませんが、実際に行ったら随分と影響を受けるのではないかと思います。

北 ■今回の旅行でスペインという国に興味を持ったので、もう一度スペインに行つてスペインのことを深く知りたいと思いました。



亀田 諭くん



兼平 伸也くん

スに七月に行きます。冬はロンドンとウィーンに決まりました。

北 ■いい点は、自由行動が多くあったことです。自分達の足でいろんな所を歩いて、外国を経験することはためになると思います。

山本 ■ガイドブックがあれば便利ですね。スペインでは英語がほとんど通じないから、すごく便利でした。

白石 ■旅行前の説明会や、旅行先での交流会ももつとあつてもいいと思います。旅行中は先輩達が仲良くしてくれ、とても楽しかったです。

兼平 ■大英博物館は全部見たかったんだけど、自分達で行つて随分迷いました。やはり、見たいところの事前の情報収集や、旅行先で使いそうな会話のフレーズは言えるようにして行った方

がいいと思いました。

亀田 ■言葉以外に軽いマナーとかも、少し勉強して行ったほうがいいと思いました。

北 ■向こうの大学を見学したり、交流をしたらものすごく充実したものになるかなと思います。

高橋 ■終わりに、外国に行つて「日本について」「日本の社会」について考えさせられたこと、また再認識したことなど一言ずつ言つて下さい。

北 ■日本人のものの考え方の狭さというの、日本人は知らない人に対して非常に警戒心が強く、態度や表情に現れます。外国人は笑顔で「ハロー」とか「グッドモーニング」と言葉をかけてくれました。いいなあと思いました。

山本 ■日本にいると、あまり人のことを気にかけないようにします。外国の人達はすぐ話しかけてきたり、向こうから関わりを持つとうとしてくれる。人とかかわりの中で、日本と違う文化を吸収すべきだと思います。そういう意味でも海外に出て行くべきだと思います。

白石 ■スペインでは、地下鉄に乗るにも常に緊張感がありました。日本に帰ってきて、まるで危機感を感じず、「平和ボケ」を実感しました。と同時に日本という国の良さをあらためて感じました。

兼平 ■スペインに行つても、イギリスに行つても、あらゆる国の

人が住んでいます。そういう環境でない日本人は、視野そのものが狭いのではないかと思います。

亀田 ■僕などは、外国人を見ると、ついつい敬遠してしまいますが、向こうの人は、日本人を特別な目で見たり、接したりせず、自然な感じでした。その点が違うと思います。

高橋 ■海外の人たちは、日本人を特別に意識することはないので、日本人はこうであるとか、固定観念を持つ必要はないと思います。もっと自由に、ロンドンに行つたらイギリス人になりきるとか、アメリカに行つたらアメリカ人になりきることが旅を楽しむ秘訣だと思います。今日は、どうもありがとうございました。

変わる入試

「選択」から「相互理解」へーAO入試導入

新たな時代の新たな大学像を追求する函館大学では、平成十三年度から大胆な入試改革を行います。この入試改革は、大学と学生が理解を深め、入学後の満足度を高めることが狙いのひとつです。新たな入試制度について説明しましょう。



入試委員会委員長・助教授 今井 敏博

う。とにかくここ数年の変わりようは、最前線にいるもの一人としては激しく感じる。

入試委員会の機能が変わりつつある。これまでの入試制度は、選抜のための入試であった。それがいま転換点にある。新聞等でも報じられているように、選抜するのは今までは大学の方であった。学生が選抜されていたのであるが、これからは選抜されるのは大学の方であるというように時代が変わりつつある。

しかし、多くの大学では表面的にはいまままで通りであり、先が読めないために本学もその例に漏れない。いま言えることは、入試委員会というよりも、入試広報委員会というような位置づけになっているということである。世間の状況を見て、入試制度を多少マイナーチェンジして様子を見ながら対応を考えている、ということが正直なところである。

2001年度の入試

＜AO入試＞

入試はまず本学を知ってもらうところから出発する。本学の自身の情報発信である。本学案内やポルトナビエ等を通じて「函館大学」というものを知って欲しい。情報に接し、さらに話しを聞きたい受験生に対し、本学でも今年度からAO入試を実施し、その要望に答えることにした。書かれたものだけでは不安な受験生は是非利用して欲しい。

＜推薦入試＞

●商業科・総合学科推薦入試
今年度から推薦入試を細分した。商業高校や総合学科高校からの要望を取り入れ、商業科・総合学科推薦枠を新設した。

●課外活動等評価推薦入試
また課外活動等の業績を出願基準に取り入れることにより、課外活動等に取り

組んできた高校生に広く受験の機会を設けるように改善した。

●一般推薦入試

しかし、課外活動等がない受験生でも人間的に良い生徒がいて、従来これらの生徒が本学入試で不利であるという指摘を受けていたので、課外活動等のない高校生向けに新たに一般推薦入試として枠を設けた。

＜スポーツ推薦入試＞

本学は小さい大学ながらスポーツが盛んであるが、近來やはり減少しつつある。そこで是非大学入学後も生徒を募集するものである。

＜自己アピール入試＞

本学に対して既に知識のある生徒で、このような大学に入りたいというものに対して、これまでの成績よりも将来への熱意によって本学への適正をみよとする

入試である。

＜試験入試＞

国語、英語、数学、簿記、日本史、世界史、政治、経済の七科目より試験場で二科目を選択するアラカルト方式により実施している。

学業特別奨学生も兼ねているので、学業特別奨学生を希望する受験生は、

是非チャレンジして欲しい。

＜社会人入試＞

社会人になっていてる人も本学は門戸を開いている。

＜編入学入試＞

大学、短大、専門学校で単位を持っている人、それらを生かして、本学のエッセンスを勉強したい人に編入学のチャンスがある。

- 推薦入試
 - 付属校推薦
 - 指定校推薦
 - 一般推薦
 - 商業科・総合学科推薦
 - 課外活動等評価推薦
 - スポーツ推薦
 - スポーツ特別奨学生推薦
- AO入試
 - 入学後の目的意識・活動歴及び能力・学業成績等について(書類・面接)
- 試験入試
 - 付属校試験(2教科選択・面接)
 - 一般試験(2教科選択)
 - 自己アピール試験(自己アピール書・面接)
 - 社会人試験(小論文・面接)
- 特別奨学生入試
 - 学業特別奨学生試験(2教科選択(英語必須)・面接)
- 編入学など
 - 4年制大学に1年以上の在学者、短期大学・高専・専修学校の卒業生(卒業見込み者含)(小論文・面接)
 - 海外姉妹校留学生転入学

平成十二年度 入学生

私たちはこうして函館大学入学を決めました



進藤真由美さん (一年・札幌白陵高校出身)

実は私、函館生まれで小学二年まで函館にいました。それから札幌です。

特別奨学生

● 親近感のあった函館大学、設備重視で選びました

が、いつかまた函館で暮らしたいな、と思っていました。祖父母の家に行くとき、函大の前を通るので、小さい頃から函大には親しみを感じていました。大学の受験校を選ぶとき、他の大学もいろいろ検討しましたが、設備が充実している点でも函大がいいなと思って決めました。今は、祖父母の家で暮らしているので、両親も安心しています。また、思いがけなく特別奨学生に選ばれ、一年間の授業料が免除になるというところで、両親の経済的負担も軽くなると思います。函大での目標は、教員免許をとること。将来は教師になるのが夢です。また、将来役立ちそうな資格はできるだけ取っておきたいと思っています。商学系の勉強するのは初めてですが、とても興味があり、簿記研究同好会があると聞いているので、それに参加して楽しく簿記をおぼえたいなとやる気です。自分でもパソコンを持っていて、家に帰ってからも、パソコンで遊びながら勉強しています。

● 大好きな野球を続け、リーグ戦の記録を作りたい



古跡 健吾くん (一年・江別とわの森三愛高校出身)

など思っています。

僕は子供の頃から野球をやっていて、高校時代は強い高校ではなかったので負けた思い出ばかり。だから大学でも野球を続けて、いい思い出を作りたいと思いました。高校の先輩が函館大学に入学すること、入学を決めた理由です。入学願書を持って函館大学に来たとき、野球部の練習を見せてもらい、僕もここで頑張ろう、その時から思っていました。僕は高校二年の頃、札幌の麻生球場で一四〇mのホームランを打ち、当時の高校生の球場記録を作りました。そして自己アピール入試の面接では、大学ではもっとパワーアップして、目標一六〇m、北海道六大学リーグのホームラン記録を作りたいと夢を語りました。実際に入学して、これまでより高いレベルで野球がやれることが、楽しくて仕方ありません。野球を通して、そして大学での勉強を通して、人間として一回り大きく成長したいと思っています。僕が頑張ることで、高校の後輩たちの励みになり、そして後輩たちが僕に続いて函館大学に入学してくれてほしいなと思います。

スポーツ推薦入試で入学

● ボウリングの強豪校と知って絶対、函大に入学しようと思った



佐藤 祐輔くん (一年・岩手県専修大北上高校出身)

僕が函館大学に入学を決めたのは、第一に函館大学のボウリング部が全国的にも強豪校だったことです。中学・高校と個人で大会に参加していて、東北シニアで一位になったこともあります。高校卒業後は専門学校に進学しようと思っていたところ、函館大学のボウリング部を知り、しかもボウリングがスポーツ推薦入試の対象になっていたため、ボウリングも続けられしかも大学で学べる函館大学に、ぜひ入学したいと思いました。ずっと個人で練習してきましたから、ボウリングをクラブ活動としてやるのは初めてです。でも先輩にアドバイスをもらったたりして、練習にとても緊張感があり、新たな発見がたくさんあります。また大学では五人のチーム制で大会が行われますが、それも初めての経験になります。もし大会に出場するときには、周りを信頼して、ベストのボウリングをしたいと思っています。そして、これまで以上の成績をあげられるよう貢献したいと思っています。大学では、勉強でもスポーツでも、「自分に勝つ」をテーマに、自分を甘やかすことなく、なにも取り組み、四年間を有意義に過ごしたいと思っています。

就職に強い函大

不況下での懸命な取り組み

ブランドの維持・強化

日本経済が「緩やかな改善」を見せている状況にある中、長く続いてきた就職氷河期は改善を見せるのでしょうか。大学新卒者の就職は依然楽観は許されない状況ですが、その中でも大学・教職員が懸命に企業へのアプローチを行っています。四年生の学生も、内定者が決定しだしています。平成12年度の函館大学就職戦線の見通しと現況を就職部長の大江田教授に報告してもらいました。



就職部長・教授
大江田 清志

景況観を反映して 就職にも変化の兆し

平成12年度前半のわが国経済は、上場企業が減収ながら3年ぶりに増益を確保し（日本経済新聞社）、情報技術（IT）分野を中心に設備投資が持ち直し、「厳しい状況をなお脱していない」ものの、「景況は、緩やかな改善が続いている」（月例経済報告5月）状況

にあるようです。

このような景況観を映して、民間企業の2001年度における大卒の新卒採用総数は、2000年度実績比で7.1%増加するという採用計画調査が公表されました（2次集計/日本経済新聞社）。採用計画が前年を上回るのは3年ぶりであり、冷え込んでいた就職戦線にも大卒新卒採用を中心に変化の兆しが見えてきたといえます。



就職ガイダンス

の不況下で懸命な取り組みが続いています。本学の就職希望学生に対する支援策の特徴は、企業への多様なアプローチにあると思われる。次ページ（就職支援のため

の多彩な企業アプローチ）でも明らかとなり、就職内定企業の本社所在地は、東京圏、札幌圏、函館圏、東北圏、大阪圏、名古屋圏の順に多く、内定先企業の総数は概ね200社になります。

教職員による 精力的なアプローチ

これに対する主要な就職支援策として、「企業訪問」、「出張」就職懇談会、「業界説明・懇談会」があります。「企業訪問」施策だけとってみても、教職員が分担して200コース・合計200社を毎年継続して訪問しています。「出張就職懇談会」では、東京・札

幌の2会場では延べ3回にわたり、120社の人事責任担当者との懇談がもたれます。「業界説明・懇談会」では、東京・札幌・函館から60社の人事責任担当者の参加を得て本学生との直接面談会および本学教職員との懇談会がもたれます。部分的な重複はあるものの、内定企業総数200社に対し、実に380社にのぼる企業に対する直接的なPRが行われるのです。

これらの企業アプローチの他に、毎年、学生自身による企業開拓がきわめて多く、開拓企業に対してはお礼訪問や大学各種PR誌などの送付によるフォロー活動がなされます。加えて、本学招聘企



函館大学主催の業界研究会

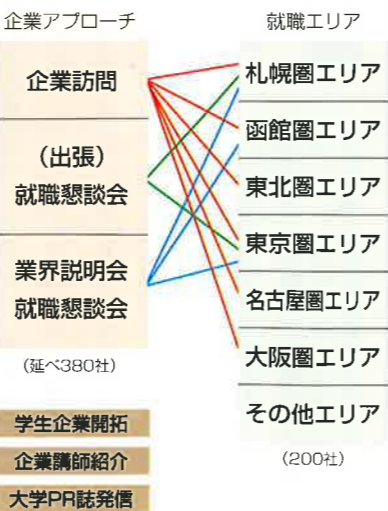
業講師の先生方からの直接・間接的なご支援もいただきます。もちろん、学生を対象とする各種就職支援施策を実施のうえ、就職マーケットに送り出す

ます。平成12年度の就職戦線も、いまや正念場となる時期を迎えています。必要な個別支援を惜みず、一人でも多くの学生の就職における自己実現の達成を見届けることが、本学教職員すべての喜びとするところですね。



就職懇談会

就職支援のための多彩な 企業アプローチ



頑張ってます! 社会人二年生



金井塚 敏史
(東京都・駒場学園高等学校出身)

人に喜ばれ社会に 貢献できる仕事をした

社会人となり働いていくのであれば、自分の仕事によって人々が笑顔を持ち、喜び、そして自分を必要とされる職に就きたいと思ひ、流通業界の食品スーパーである株式会社ヤオコーに身を投じて二年目に突入しました。

◆(株)ヤオコー本社人事部長勤務

函大卒業後一年が過ぎた一人のOBから、近況、函大時代のこと、そしてこれからのこと、社会人としての一年間を振り返って報告してもらいました。社会人・企業人として、立派に成長している様子がうかがえます。

新人社員として店舗で勤務を始めた時、そこには多勢の人達の生活のシーンが溢れており、お客様の中には私の名前を覚えて下さり声を掛けて下さる方もいました。そんな中おこがましくも「私がこの人達の生活を支えているのだ」という思いが湧き起こり、今の仕事に対してとても誇らしく、自信を持ち胸を張っていました。こんな充実した入社二ヶ月目の私に一生忘れられない大事件が起こりました。弊社はお客様のニーズに常に答える為、新人社員にも意見を述べる機会があり、そんな中、私が新商品を提案したところ、採用され、一店舗だけではなく、全店に普及されていったのです。私はこの商品をお客様が手に取るのを見た時、喜びの余り、全身が震える経験をしたのです。

今私は人事総務部に所属し、採用担当者として活動しています。直接お客様の声は聞く事は出来ませんが、二年前の私の様な学生に話をする事によって一人でも多くの方に仕事の楽しさを知ってもらいたく思っています。今後は早く店舗に戻り、将来は一国一城の主である店長になりたいと思います。



猪田 健太郎
(北海道・函館中部高等学校出身)

◆(株)サンクスアンドアソシエイツ 岡山 清心女子大前店勤務

将来のビジョンを しっかり持つ

社会人一年を振り返り一言で言うならば、自分との戦いの連続でした。私の場合、北海道から遠く離れ、岡山という土地で社会人としての第一歩を踏み出したわけですが、友人もいなく生活習慣の違いに悩み、初めて郷愁の思いというのを知りました。風の匂いや、花の咲く時期などすべてが異なるこの地で、ことあるごとにふるりの良さを強く意識したものでした。

今、入社間もない頃の自分を振り返ると、未熟であったことを強く意識します。仕事のおも

しろさや、自らが仕事や対人関係を通して成長するおもむきを知る前に、どこかに逃げ道をさがしていたのだと思います。新しい生活をスタートする時、大切なことは自らの心の扉を開き、受け入れることだと思ひます。自分の知らない知識、文化、人との出会い。それらと合わせることにより自分が成長することが楽しくなるのです。特に人との出会いは何にもかえがたい程、皆さんに大きな影響を与えてくれるでしょう。

社会人になることは本当に大変です。毎日が戦いの連続です。そんな中で決して忘れてはならない事があります。それは将来に対しての夢を持つこと。良いライバルを持つこと。良き人達の先輩を見つめることだと思ひます。そんな人達と出会うためには、そして変化の激しい時代の中で自分の将来のビジョンをしっかりと持つには、心のアンテナをみがき、感性豊かな自分であることが大切だと思ひます。沢山の出会い、そして皆さんの成長を期待しています。

函館大学3年生のK君へ



客員教授 石本一詔
名古屋証券取引所専務理事 [元日本銀行審査役]
「金融論」担当

4年間の大学時代は、今でも鮮烈な思い出となっています。色々な学生生活がありますが、これが最善といったものはないと思います。学問に専念する、スポーツに懸命になる、奉仕活動に頑張るなど、何れも価値あることです。何故なら、それぞれの目標に向かって精一杯努力することこそが、君を磨くことになるからです。

まず、君の考え方、価値観などをしっかり持つこと、すなわち、自らのアイデンティティーを確立していくことだと思えます。仕事上のことはもとより、一般的な経済、政治、社会、文化等、各方面に亘って、君がどのような考えを持ち、行動するかによって、包容力のある人、品格のある人、見識のある人、リーダーシップのある人、といった評価が決まってくるでしょう。そして、君には「知恵」(ものごとを考えたり、判断したりする頭のはたらき。三省堂、国語事典)を沢山身につけて欲しいと思います。大学で学ぶ知識は、将来、必要となるもののごく一部ですが、君が社会人として生きていくための知恵は、今のうちに十分自分のものにするのが出来ます。また、最近、私が特に若い人に望みたいことは、起業家精神を培っていただきたいということだと思います。良い成績で、一流大企業に就職さえすれば、その後の人生が全て良しという時代は、終わったようです。勿論、卒業してすぐ事業を立ち上げることは至難ですが、そうした気構えで、自らのキャリア・パスを作り上げれば、必ずや希望はかなえられると思います。経済の自由化と情報技術の革新が相俟って、あらゆる産業分野にビジネスチャンスが拡大しています。第二のソニー、ホンダを目指して下さい。

衛星通信を使つての資格取得講座開講!

函館大学では、本年度より正規のキャリアラムとは別に「資格取得支援講座」を開設しました。学生のみならず、資格取得への要望が非常に高いことから、この講座を開設し、社会人や他大学の学生にも開放しています。開設講座は、社会保険労務士、宅地建物取引主任者、情報処理技術者(シスアド初級)、英語(TOEIC 550点目標)、販売士(2、3級)、簿記(日商2、3級)の六種類八講座です。

この「資格取得支援講座」は、函大が道内大学としては初めて導入する衛星通信によるシステムが最大の特徴です。

徴です。全国約二百の大学と約十社の企業がつくる「日本工業技術振興協会U・L・M協議会」が、各講座の講義を撮影し衛星通信で配信。それは、函館大学内のコンピュータで受信し、受講生はパソコンから講義の映像を引き出し受講するシステムです。この衛星通信を利用した講座は、社会保険労務士、宅地建物取引主任者、情報処理技術者(シスアド初級)、英語(TOEIC)の四講座です。販売士、簿記は、地元の税理士らを講師に招いて開講します。社会的なニーズに対応しての講座開設、しかも社会人等にも開放し、函館大学はますます開かれた大学として地域に貢献しています。

私の母校

自由ヶ丘学園高等学校

横倉圭介くん(二年)



僕は今、函館でも充実した大学生活を送っています。部活動に所属していて、そこで多くの友人と出会い、わずか一年の間ですでに忘れられない思い出を多く作る事ができました。そして、この今は、自由ヶ丘学園の学園生活があつてこそだということを改めて実感しています。自由ヶ丘学園は、他校に比べて少々厳しい面があるかもしれませんが、しかし、授業の一環であった柔道での礼儀作法や学園生活での教育、そして部活動での人間関係やそこで入宿の楽しい生活など、そこで学んだことが、この大学生活の基盤になつていいると思います。

また、いろいろ話しを聞いてくれ、厳しく指導して下さった先生方にもとても感謝しています。こうした先生方や友人に囲まれた学園生活を送り、そして、今は都会とは違う沢山の自然がある中で新たな生活を向かえることが出来ました。これからの大学生活では、もっと多くのことを学び、人生で忘れられない思い出を多く作っていきたくと思っています。

質実剛健の野草的教育を掲げる男子校

校名が表すように、創立者が自由主義教育を掲げ創設され、また教育目標には質実剛健の野草的教育を掲げる男子校。その伝統的な校風は今も引き継がれ、学業・クラブ活動など伸び伸びとした教育が実践されています。伝統行事である柔道大会や柔道寒稽古は、質実剛健の校風をまさに表したものです。

自然と触れ合う行事や、海外への修学旅行など、さまざまな体験の中から生徒たちはたくまげのものを学びとっています。「人に親しまれ、信頼される人間になる」の校訓を実践するためにも、触れ合い、体験を重んじ、その機会を学校教育の中に取り入れています。

私の母校

岡崎城西高等学校

安杖竜馬くん(三年)



自主性・個性を伸ばすユニークなプログラムを実践

独自の教育プログラム、個性豊かな学校教育を目指す岡崎城西高校。ここでは、平成九年度から完全週五日制を取り入れています。第二・第四土曜日は完全休校ですが、その他の土曜日にはSCセミナーといつて、パソコン、料理、アウトドア、スポーツなど多彩な課外プログラムを用意したセミナーを開催。またオープンセミナーといつて、地域に人にも公開して音楽や英会話などの講座を行っています。まさに体験を通して、自分の興味をどんどん広げていくことができます。さらに土曜日には、通信衛星による特別講義も開催されています。こうした自由な校風は、クラブ活動にも活かされ、サッカー、ハンドボール、軟式テニスなどは全国大会の常連。大学進学率も年々向上しています。

私の母校、岡崎城西高等学校は普通科、進学コース、就職コースに別れています。一年生までは、普通クラスと特進クラスの二つに別れて、二年生から進学コースと就職コースの二つどちらかを自分で選んで決めます。僕が在学中は男子校だったので、去年から男女共学に変つたそうです。私は就職コースで勉強していましたが、それでも大学へ進学して学びたい気持ちと、ずっと続けていた軟式テニスをまだ続けたい気持ちがあり、それで両方が叶う函館大学に進学することにしました。途中から針路変更でしたが、親身に相談に乗ってくれた先生方に感謝しています。



学校法人安城学園 岡崎城西高等学校
愛知県岡崎市中国町川成98 創立：昭和137年

論文名

精神のルネッサンス (1)

～「気概」と「同感」の経営を目指して～



助教授 藤嶋 暁

日本の経営の再考と アメリカ的経営へのアンチテーゼ

今、日本型経営はダメだ、と言われる時代ですが本当にそうだろうか。これが、この論文の出発点です。最近、日本の企業はどんどんアングロ・アメリカ的な経営手法を取り入れています。理性ばかりを先行させて、感性の部分を抑えるような彼らの経営スタイルが、本当に日本人の精神に合うものなのか、ちょっと危険ではないかと提言しておきたかったので

この二百年間で自然科学は科学技術が急速に発展し、効率性・合理性ばかりを追求してきました。でもそれは、理性の過信じゃないかと思うんです。ヘーゲルとアダムスミスは、二百年前に同じような状況を心配していたのです。この二人が、二百年前に心配したことがどの

ようなことだったのか、それを復興してみようというところで論文名に「ルネッサンス」を入れました。二百年前にヘーゲルは「気概」、つまり自分は他より優れているんだという優越願望が、人間の歴史を作ってきたんだと言っています。その「気概」がなくなれば、革命も起こらなければ、英雄も現れない、誰も彼もが気概のない人間になって、みんなが幸せにならばいいという社会になる。そういう「気概」のない社会を、ヘーゲルは心配したんですね。もう一つ、タイトルに入れた「同感」は、二百年前にアダム・スミスが言ったことで、人間関係で大事なものは、個人と個人の同感、信頼であると言っています。

この矛盾する「気概」と「同感」、欧米の社会ではどちらかしかないのですが、日本では両立するのではないかと。例えば、日本人は集団社会の中で他から認められることに「気概」を感じます。単純な勝ち負けではなく、集団で頑張ることに「気概」を持ち、その中で他から認められることで自分を評価する。その日本人特有の精神を、日本の企業経営から排除していいの。現在の風潮のように、日本の経営が、アングロアメリカ的に理性と合理性と勝ち負けの経営に流されていくのか。そんな警告を、この論文では試みてみました。

石油政策と現実の入り そのメカニズムを考察

重化学工業化の開始と石油政策の転換 1950年代後半の石油政策

論文名



専任講師 寺田 隆至

この二つの論文は、一九五〇年代後半、戦後の高度成長時代が始まった時期を対象としています。高度経済成長期は、現在の日本の基盤を作った時代と言えます。これまでも、日本の高度成長期を論究したものはたくさんありますが、まだまだ明確に解明されていない部分もあります。その一つが、石油産業です。一例をあげれば、石油産業は一九六〇年までは非常に業績がよかったのですが、その後は「利益なき繁栄」と言われ、売上は伸びるけれど、利益率は低くなってしまった。

石油というのはあらゆる産業に関わりがあり、国民生活にも大きく関わるものです。石油へエネルギー転換することで、北海道の石炭産業は壊滅させられました。このように、石油産業に対する政策は国

にとって非常に重要な政策の一つだったのです。しかし、その石油政策が決定する過程や、実施された後の検証が不十分なのではないかと、私はずっと感じていました。

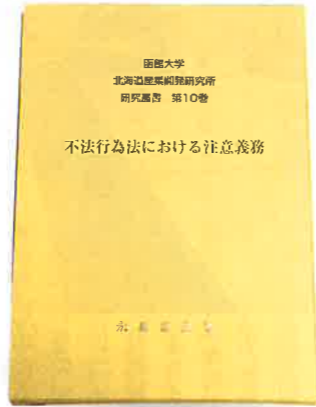
高度成長が始まる一九五五年位からですけれど、当時は石炭産業を保護するという意味で、重油の消費を規制する政策が実施されました。さらに、国の政策が意図したものと、実際の結果のズレを扱ったのが後の論文です。石油政策の場合、国が予想した以上に石油の消費が伸びていきました。これは石炭産業の立場からの政策批判を招きました。ではなぜズレが生じたのか。国が政策を実施する際のスタンスの弱さもあったのですが、企業としては国の政策の隙間をぬって活動するわけで、そうした政策の「弱さ」と企業の「強さ」がズレを形成していった。このメカニズムを、私なりに解明してみました。

著書紹介

『不法行為法における 注意義務』

著者
助教授 永盛 恒男

1999年10月30日発行 函館大学・北海道産業開発研究所刊



本書は、永盛先生がこれまで書き上げた論文をまとめた論文集です。

民法を専門としている永盛先生は、「最初は契約法からスタートしたのですが、途中から不法行為法に研究対象を移しました。不法行為法では、この論文集に

も入っていますが、ドイツやイギリスの不法行為法を基礎に、日本の不法行為法にも言及した論文も入れています。

この論文集を刊行するに当たっては、河村学長の「大学の教員をしていて、著書一冊残せないので怠け者だぞ」の言葉に励まされ、論文集の刊行を決意したそうです。「でも、函館大学の教員になって十数年になります。その中で最初の本ですから、学長の言う通り私は怠け者なんです」と永盛先生は笑います。

また、論文集という点では、日頃の研究や講義がその内容に反映しています。「本当に学生には感謝したいですね。学生の存



『天邪鬼のアイロニー』

著者
講師 福士 隆三

2000年2月1日発行 文芸社刊



在があるからこそ、私自身勉強しなければならぬし、学生の反応が研究の励みにもなります。これまで私の講義を聞いてくれた学生・ゼミ生には心からお礼申し上げたい。

この一冊で終わらず、何年か後にはまた論文集が刊行されることを期待しています。でないと、また学長から「怠け者」だと言われかねませんから。

函大特別講師として招いている福士先生は、元青森銀行調査

部長、現在は現青銀研究所常務理事をされています。その福士

先生が、地元青森の東奥日報やタウン誌の掲載したコラムを、一冊にまとめたのがこの『天邪鬼のアイロニー』です。さて、書名になっているアイロニーとは「皮肉、反語」という意味です。天の

邪鬼を自認する福士先生が、世の中のさまざまな事柄を天の邪鬼の視点で斜めから見て、どんな切り口でとらえているのか、一編一編がその切り口の面白さが楽しめます。

「取り上げた事柄はさしたるものではない。その事柄に託して、自分の見方を語った」と先生が言うように、なるほどこんな見方もできるのか、と感じさせられます。物事をちょっと踏み込んで見てみると、別の考え方が誘発されてくること面白さがあり、その意味では、学生にもぜひ読んでほしい一冊です。

一編が千字〜千二百字のコラムですから、どこからでも読み進めていけます。中高年そうには共感できる話題や、若者層へのアイロニーは逆に若者層にも共感を得られるでしょう。ぜひ一読をお勧めします。

天の邪鬼でないと、今の物事の真意は見えてこないのかも知れません。この本を読んで、みなさんもちよっとだけ天の邪鬼になってみてはいかがでしょうか。

●福士先生の既刊本
『半面の論理』(北の街社)

日本版ビッグバンにより 企業経営はどう変化していくか

財務管理論セミナー 客員教授 磯村 元史

日本の金融システムを世界基準に合わせるための金融改革、日本版ビッグバンの打ち出しは市場を揺るがし、混乱と苦痛の時期を到来させました。その激動の時代をどう生き抜くか、東洋信託銀行の創設から関わってこられた磯村先生の経営論が説かれていきます。

磯村ゼミのテーマは、「経営をめぐる環境の激変が、企業や公企業の経営にどん



な影響を及ぼすのかを、経営の実務面や国際比較の面から議論していく。この議論の過程を通じて、物事の判断力や表現力を養う」とのこと。磯村先生



の熱のこもった指導と適切な助言が、ゼミ生の心をつかんでいます。学生たちは「自分たちの求めていることに確実に応えてくれる」、「会社のこと、社会の動きがよくわかる」と言います。

磯村先生は、「今、会計基準の改訂によりビジネスの世界は大きく変貌し、すべての機関、機能さらに経営の手段、経営の在り方までもが変化しています。この変化によって、やがて世の中にも変化が現れていきます。その一連の過程を理解してほしい」。この点を理解していれば、就職後にもきつと役立つに違いありません。就職に関しては「面接では面接者の目を見て話すことが大切。それは、目がその人の心を語っているから」と先生は言います。特別講師の中でもゼミを持つているのは、磯村先生を含め三人だけ。それだけ、企業のトップの話が聞ける磯村ゼミは人気が高いようです。

歴史資料を原本に 商業の原点を探る

日本経済史セミナー 専任講師 田中 浩司

田中ゼミを聞いていると、一見古文の授業のように見えます。テキストになっている古文書を学生が読み、訳し、それに対し先生が説明を加えたり、学生同士で質疑応答を行っています。取材した日は、徳川幕府の「武家諸法度」をやっている、「これには流通統制が出てきます。日本の経済史の重要な資料を当たって、その経緯を調べていきます。昔の人が実に巧みに経済統制・規制をしていたことに学生も感心しています」と田中先生。

三年生の時に、まず律令制度から始まり、順に時間を追って文献にあたっていきます。一人の学生は「日本史が好きだったのでこのゼミを選びました。自分でいろいろ調べていくところが面白いです」と言います。また他の学生は「古文書を訳すのが、すごく難しく、訳すのにもセンスが必要だなんて実感しています」。最後に田中先生から、「このゼミで取り上げている文献は、いずれも日本経済の原点とも言えるものです。経済史の根本資料にまで遡って、そこか



ら自分なりに、経済の発展を再構築し、そして、現在を、未来を考える力を養ってほしいと思っています。ときどき、学生の珍訳もあって面白いですよ。田中先生が、学生と割と年齢が近いことから、とても楽しい雰囲気が出た。

協学会だより

今年も夏休み期間中に 各地で地区懇談会を開催

●協学会事務局長 石崎福邦

今号は、本会の最大イベントともいえます地区懇談会の様子をご紹介します。

七月に入りますと、学生諸君は、一日から始まる夏休みへの期待からか、はたまた、懐かしいふるさとのご家族や友人との再会に思いを馳せるのか、その表情は、どことなく華やいで、浮きうきしたものと変化していきます。

一方、学生達そのような姿にほほえましく応じながらも、舞台裏では、執行部を中心とした職員が、一層の緊張感に包まれるのも、この季節です。例年、七月の第三日曜日から開始される全国の地区懇談会のご父母との出会いの準備に余念がないからです。あらかじめ申し込



みいただいたご家庭に関しては、ご子弟の出席状況や前年度末の成績状況をご報告できるように備えます。万一、思わしくない事情があれば、各ゼミナル担任から指導状況報告書を求めたりして、ご父母等との面談に万全を期します。また、事務局では参加人数に応じた担当教職員の確認や出張・宿舍等の手配として配付資料の発送へと忙殺されながら当日を迎えることとなります。

昨年はこの函館のほか、北海道内では、本会の副会長でもあります図書館長の高月晋教授を責任者として、室蘭、旭川、札幌、帯広で、そして本州では、河村博旨学長の陣頭指揮のもと、青森、仙台、東京、大阪の各地でそれぞれ懇談会が開催されました。

東京では本会の山村幸生会長と関東地区担当の原雅啓幹事が、そして大阪では関西地区担当の今中淳顧問が、それぞれ列席され気遣いを重ねて下さいました。本州各地区では河村学長から、函館大学が目指しているアカデミズムと実学との融合、これらを裏付ける各種出版事業（函館大学出版会、函館大学北海道産業開発研究所叢書として自費出版への本会からの援助等々）、学生諸君の自主自立の精神を涵養する課外活動の振興等々、広範にわたり、最新の事情について詳しく説明がなされました。次いで、部課長から学修、学生生活、就職の重点項目について、配付資料にもとづき解説がなされました。熱心にメモをとっておられるご父母の姿に、教職員は責任の重さを痛感した次第でした。

後半は前半のちよつと固い雰囲気から解放され、和気あいあいの懇親懇談会です。ここではご父母同士の情報交換が印象的でした。仕送りの額と季節交換が印象的でした。マイカー、バイクへあわせた衣類のこと、マイカー、バイクへの心配等々。遠く離れて暮らす我が子への親心に互いに相槌を打ち、わが家だけでない事情を知ってほつとされるなど、時間のたつのも忘れるほどの盛況でした。今年も地区懇談会季節の到来です。

窓の話題

環境問題の変質

教授 上平幸好



公害という言葉が、昭和40年代に登場してから既に35年が経ち、この間に日本は豊かになつて私たちの生活レベルは向上しました。以前のように鉱工業生産による極端な大気汚染や河川の汚濁は、法の整備がなされて少なくなりましたから、生活環境は見た目には改善された印象を与えています。しかし残念ながら手放しで喜ぶわけにはいかないようです。それは、ごみの焼却にともなう「ダイオキシン」とその類似物質や環境ホルモンとして知られる「内分泌攪乱物質」が新たに登場しているからです。

商品の生産・消費そして廃棄の過程で、生物に深刻な影響を与える前述の物質が生態系に組み込まれ、これらが生殖機能や遺伝子に損傷を与えることが明らかにされていますが少量でこれらの物質は、劇的な効果をもたらす性質があるため侮ることはできません。

さて、商業・観光都市の顔をもつ函館の環境ですが、従来型の公害とされる水質汚濁は下水道整備により

大幅に改善されました。基幹産業の違いから大気汚染は大都市ほどではありませんが、私が調査したところでは指標となる酸性雨の降雨頻度は少しずつ進行しています。鉱工業生産の少ない日本海側各地で強い酸性雨が観測されているので、隣国の産業活動に原因があると推定されており、函館の結果の原因も同じであろうと思われま。環境ホルモンについては、全国の沿岸で「貝のインボセックス現象」が報告されていますので、函館も例外ではないでしょう。バブル経済の崩壊で大きな痛手を被りましたが、機会あること海外旅行をしてきた私の目には、依然として日本は豊かな国であることは変わりないと考えています。もっとも貧富の差は大きくなっており、経済的理由から退学する学生がここ数年多くなっていることも事実です。ですから本年度に入り経済活動に薄日が射しつづけることを喜んでいきます。

経済発展と環境保全の両立は難しい問題ではありますが、原因が明らかなら環境問題については対策をたてることが出来ます。ありきたりの結論ですが、ヒトの将来を考えると環境問題には積極的な取組が必要と、これまで以上に考えさせられる今日この頃です。

ケニアで野生のゴリラを見るのが夢



●教授 赤松 潤

「年に一回、海外へ行くようにしているんです」と言う赤松先生。去年は、南米のペルーへ行き、ナスカの地上絵や空中都市・マチュピチュ、チチカカ湖などを見て回ったそう。「昨年はギリシャ、トルコを回ったそう、何か古代文明に興味があるのかと思うと、「そうじゃないんです。ただ、ただ年をとって脚が弱ってきまして、だから海外旅行に行けるうちに、五大大陸を回ってみようと思ってるんです」とのこと。まだ一度も行ったことがないのがアフリカ大陸で、「野生のゴリラのドッキングを見るのが夢」だそう。

「僕は、動物園が好きで、日本の動物園はほとんど見えています。特に「ゴリラ」や「オラウータン」など、霊長類を見るのが好きですね。彼らはどんな心理で行動しているのか、想像しているとおもいませんか」と言っているのは、さすがマーケティングで消費行動心理学を研究している赤松先生らしいですね。

その赤松先生いわく「今の学生の行動の方が、謎に満ちてますね。あまり団体で行動しないし、異人種のような感覚がする」そうです。

発見と感動を求め、海外見て歩き



●教授 大江田 清志

大江田先生も海外旅行が趣味。仕事や研究の他に、奥様と二人で「発見と感動」を求めてのプライベートな旅行をよく楽しんでます。鮮烈な思い出は、ある国に世界遺産を見に行ったついでに「ゴルフ」だそう。「ゴルフボールが一個八〇〇円に、一日のキャデイ料金が三〇〇円。練習場では「コーラ一杯二〇〇円」に、三〇〇球で六〇〇円のキャディ料。もし、キャディは要らないという一人分の仕事が無くなってしまふ。貴重な人的資源をこんな形で使っちゃうと悲しささえ覚えたそうです。

好きな国は「やはり、アメリカかな。よくアメリカ

に行く」とレンタカーを借りるけど、有料道路を何時間走っても五ドル程度、ガソリンは一リットル四〇円、テイクアウト食品の過剰包装など、確かに資源多消費型経済の一端ですね」と言いつつも、「異文化を受け入れるという点で、見習わなければならないでしょう。日本もこれから、世界に向けてもっとオープンになっていくでしょうから、異文化を取り入れる経験を積み、そしてそれを楽しむようになってほしい。だから学生にも、若いうちから海外へ行っていろいろな体験してほしいですね」と語っていました。

外国語をきっかけに異文化への興味を



●非常勤講師 目黒 明日香

函大でフランス語講師を務め約十年になる目黒先生。学生時代は仏文科かと思いきや「いいえ、西洋美術史を勉強して、フランス語は第三外国語で勉強した程度。でも、ある日、先生が読んだヘルレーヌの詩を聞いて、すごくフランス語が心地よく美しいと思ったんです」。そして大学卒業後にフランスへ一人旅。ますますフランスが好きになり、一九八〇年から二年間、フランスの大学の語学学校に通い、フランス語を教える資格を得ました。その後、東京でフランスのファッション資料などの翻訳の仕事を経験したそうです。

「フランス語が将来役立つかという点、そうではない場合が多い。でも大事なものは、言葉を学ぶことによって、その国の文化や歴史を学ぶ入口ができて、そして広く異文化を理解する力になっていくんです。私の場合も、フランス語を好きで勉強してきたから、ずっと続けて来られたし、いろいろなチャンスも生まれました。学生の皆さんにも、外国語は覚えるものというより、世界を広げるきっかけにしてほしいと思います。」

旅行の感動は人生の財産



●総務課長 大山 紀明

函大二期卒業生の大山さんは、「学生・職員として、函大に通って今年で三十五年目。なんだか、ずっと居残っている気分です」と笑います。

総務課長として日頃忙しい大山さん、毎年夏休みみじ十日間の休暇をこるのが「最大のリフレッシュ」だそう。それまでも、夫婦でよく旅行をしていたそうだが、「三年前から日本一周を意識して旅行するようになった」とのこと。夫婦ともに温泉が好きで、温泉めぐりを計画したところ、お酒が好きな大山さんが地酒の蔵元も回るようになり、三年前には北海道

一周、次の年は東北一周、去年は石川・富山・新潟など一周、そして今年には山陰一周を計画しているそう。「こんな風に各地方をめぐっていったら、いつか日本一周になるでしょう」。今では、旅行の目的がもう一つ増え「僕は日本の城が好きで、城のある町も旅行のプランに入れている」そう。

「旅行をしていろいろ感動する。それは人生の財産になると思うんです。それと、夫婦共通の思い出も財産になると思っています」と語る、愛妻家の大山さんでした。

活字中毒の私 仕事中は読書禁止



●図書館員 矢本 多美子

「やっぱり、本が好きだからこの仕事をしているんですが、仕事中はもちろん本を読んでいるわけにはいきません」と言う矢本さん。「函大にお世話になるときも、最初に「仕事中は本を読まないように」と言われました」と笑います。

「ですから、土日は二、三時間まとめて読書の時間を取るようにしています。本が読めない、気持ちが悪く落ち着かなくて、完全に活字中毒ですね。今最も好きな作家は宮尾登美子です。」

最近気になっているのは「やっぱり健康」。でも特

別に凝っているわけではなく、「栄養素や身体に良い食べ物など、興味があることは、すぐに試しています。それに運動不足を解消するため、テレビを見ながらストレッチをしたり、本や雑誌を見ていいなと思ったことは試したり……。でも、お金がかからずカンタンにできることが第一条件」。実は矢本さんは四人の子供がいるお母さん。でも、二十四歳の子供がいるとはとても見えませんね。パワーのある素敵なお母さんです。学生たちからも頼りにされている矢本さんでした。

5月に結婚



●就職課員 川原 真理子

去る五月二十一日に結婚式を挙げられ、姓も丸山から川原に変わったばかり。そのお相手と知り合ったのも、函大職員の友人から紹介されたのが最初だそうです。結婚披露宴では、函大の女子職員たちが「世界中の誰よりもきつと」を歌ってくれたそうです。「とても嬉しかった」と言っています。

さて川原さんは、函館短大を卒業後に函大職員となり、以来ずっと就職課で活躍してきました。企業からの求人受付や学生への情報提供などが主な仕事で、女子学生の初期の進路相談も担当しています。「やはり

女子学生にとっては、私の方が話しやすいのでしょね」と言うように、学生たちのお姉さんの存在です。「学生たちの人生に、少しでも役立てるのが大きな喜び」と語ります。

仕事では相談を受ける方が多いですが、「家庭では、夫婦で何でも相談し合えるパートナーとしてやっていきたい」と。新婚旅行はしばらくおあずけですが、「その分、新婚生活を楽しみたいと思います。家庭と仕事、しっかりと両立して頑張ります」と語る川原さんでした。

函

私の函館散歩

西洋式帆船

「箱館丸」

教授 若松 裕之



帆船は、物語の挿し絵ではよくみかけるものです。「ピーターパン」から始まって、「宝島」「十五少年漂流記」までは多くの少年がたどる読書の定番でしょう。私の場合は、これに小学6年生の時の「ネルソン

提督物語」が加わり、帆船への興味、憧憬がかきたてられたものでした。TVで見た映画では「バウンテナー号の反乱」や「ホーンブロー物語」などが子供の頃の記憶に残っています。

しかしながら、帆船は耐用年数が非常に短いので、イギリスで保存されている「ヴィクトリー」や「カティサーク」などの例外を除いて、保存展示されたものを実際に目にするのは難しいものです。函館は、この希少な帆船を見ることのできる日本では数少ない町の一つです。函館港の西方、西埠頭に展示されている「箱館丸」は、安政4年に建造された日本初の西洋式帆船「箱館丸」を昭和63年に復元したものです。2本マストですから帆船としては小型の方でしょうが、十分に迫力を感じさせます。帆を張っているところを見たことがないのが、残念なところですね。

復元された帆船を前にすると、かつて読んだ物語を思い出したり、横綱索やマストに登る自分の姿を想像したりと少年時代の憧れがよみがえってくるものです。実際にマストを見上げると、その高さに、あそこへ登れば足がすくむであろうと実感させられるのも実物を見ればこそそのことでしよう。こうした思索もまた歴史のある港町に暮らす楽しみといえるでしょう。

いらっしゃいませんか、函館へ
A Sketch of Hakodate

食館

いい店 食べ歩き

明治から続いた質屋の蔵を改造した喫茶店

茶房 ひし伊



現在は、函館にも古い蔵を改造したお店ができていますが、ひし伊は函館で最初に蔵を改造したお店です。写真で二人が座っているのは、蔵の中二階の部分。「不思議な落ち着く空間」というのが一人の感想です。

●池本亜矢子（二年・函大相模高校出身）
●櫻井セリナ（二年・函館西高校出身）
石造りの蔵が喫茶店になっています。これは質屋だった私の曾祖父が建てた蔵です。喫茶店にしては、大正十年に建てたものです」と、オーナーの入村美代子さんが教えてくれました。



隣接した蔵は、骨董品とバーのお店になっています。こちらは明治三十八年の建築です。喫茶店としてオープンしたのは昭和五十七年。

ひし伊のコーヒーが美味しいのは、あのコーヒー好きで有名な高橋さんが、映画「居酒屋飛田」のロケで函館に滞在していたとき、ほとんど毎日このお店に来て「コーヒーを飲んでみた」ということで分かります。骨董品なども扱っていて、函館の歴史をとどめたこのお店。ぜひ、函館の歴史を「コーヒー」でも飲みながら感じてみてください。

茶房 ひし伊
函館市五来町9番4号
TEL0138-27-3300
営業時間/10:00~22:00
無休（年末・年始は除く）



準硬式野球部
野球が好きなのにかけては
どこにも負けません

準硬式野球、馴染みは薄いかも知れませんが、硬式ボールの表面がゴムになっている準硬式ボールを使ってやるのです。部員は現在一十五名、もちろん全員が高校時代野球部だった学生ばかりです。キャプテンの福光亮くん(三年・岩内高校出身)は、「みんな野球が好きなのだから、硬式野球をやりたいたいんだけど、それに勉強との両立も難しい。それでも野球をやりたいたいというみんなが集まっています」

北海道の大学の準硬式野球リーグは三部まであって、函大は現在二部リーグに属しています。「四年前までは三部リーグでしたから、少し上がったんです。やっぱり目標は一部リーグ昇格」とは言いますが、一部リーグでは六大学中三、四位あたりの実力。でも、「野球を楽しく」というのが Motto だけあって、部員は四年生から一年生まで、とても仲がいいようです。

「野球が好きなのにかけては、どこにも負けません」と言うだけあって、練習中のみんなの顔は、とても楽しそうに輝いています。



吹奏楽同好会
発足から四年目
今年中には部に昇格

同好会発足から四年目。この同好会をつくったのが、現在四年生の佐藤正一くん(河瀬久雄くんが入学した年。二人とも吹奏楽をやっていた、部長の佐藤くんは中学時代からトロンボーンをやっていました。その二人が、「大学でも続けたい。自分たちで同好会をつくらう」と立ち上がって作ったのです。「顧問になってくれる先生を探して、それから学友会や大学へ設立の申請や手続きなど結構面倒だったけど、大学でのいちはんの思い出です」と佐藤くんは言います。

当初は五名でのスタート。毎年部員集めに苦労しながらも、現在は八名の部員がいます。「今年中に正式な部に昇格しよう」と動いています。部に昇格したら、本当に僕が函大の四年間でやった結果になると思っています。昨年の全道吹奏



楽コンクール大学の部では、「小編成の部」で見事銀賞を受賞。その成果が、部の昇格にもつながったでしょう。今年から函大有斗高校吹奏楽部の音楽監督が指導してくれることになりました。佐藤君・河瀬君が残した吹奏楽部を、これからの人たちがつなげていって下さい。



クラブ close-up

軟式庭球部

全道大学対抗リーグ1部1位、春季団体優勝!

函館大学創立2年目の昭和41年に創部された軟式庭球部。創部当初から好成績をあげ、ダブルスの全道優勝も数回出ました。しかし、一時長い低迷期間がありました。そこからまた復活を遂げ、今や大学リーグの1部1位という、道内トップの実力を誇っています。

二番目に歴史ある
運動部

軟式庭球部は、函大では硬式野球部に次いで二番目に創部された運動部です。この号の「教職員プロフィール」(p.21)で紹介した、総務課長・大山紀明さん(二回生の入学年に創部されました。その大山さんが三年の時にダブルスで全道優勝、そして四年の時には北海道選手権で優勝しました。その後も、ダブルスなどでは毎年優勝者を出すような強豪校となり、現



在監督をしている教務課長・黒澤幹生さん(六回生)も学生時代に全道優勝経験を持っています。

しかし、黒澤さんの卒業後から成績が下降しはじめ、昭和五十年代は長い低迷期に入りました。黒澤さんが監督に就任した昭和六十二年は、なんと四部リーグまで下がっていたそうです。「僕も学園の職員として、函大の軟式庭球部は気になっていました。監督の

話が来たときには、何とかまた復活させようと思いましたが」と、黒澤さんは言います。そして、黒澤さんが監督に就任して六年後には一部リーグに昇格。そして十一年後の平成十年春季全道大学対抗リーグで、創部以来初の団体優勝を果たしました。そして今年の春も二年ぶり二度目の団体優勝を果たしました。



黒澤幹生監督(左)とキャプテン・岡宇知勇くん

かといって、練習は決して厳しいものではありません。木曜日以外は土日も練習ですが、全体練習は二時間ときっちり決めていきます。「その後の練習するのは個人の自由。結局やる気のない者は、いくらやっても伸びません。個人の能力を引き出すには、いかにやる気を引き出すかです。そのために、自分で考え、自分で楽しんで練習しろ」と黒澤さんは学生に言うそうです。キャプテンの岡宇知勇くん(三年・旭川農業高校出身)は、「監督はとにかく自分で工夫し

ろといえます。それだけ、自己管理には厳しく、約束を守らないこと、挨拶ができないことを最も嫌います。人間的にも、厳しく鍛えられています。完全に復活した軟式庭球部。この黄金時代が長く続き、そして全国レベルの大会での好成績という目標に向かって、今後も頑張っていきます。



公開講座内 案内



平成十二年度公開講座のご案内

● 公開講座実施委員長・助教 田部井 英夫

「地域に開かれた大学」を目指し、本学は関係機関や野文学園各校のご協力を賜りながら、これまで様々な公開講座を一般市民を対象に開催してきました。来年で開設十五周年を迎えます。公開講座実施委員会一同、「生涯学習社会」を目指し、地域のニーズにこたえるべく、いっそう精励努力したいと思っております。



平成十二年度の活動



当委員会は、今年度から「まなびつと・ニュース」への掲載、ホームページの充実、半期毎の公開講座ポスター作成など、公開講座情報提供システムのいっそうの確立を目指しております。昨年度下半期の公開講座プログラムとして、十一月六日、「人生の美学」というテーマのもとに、シャンソン歌手であり、俳優でもある美輪明宏氏を迎えて、文化講演会を開催致しました。演題は「生きやすい生き方」でした。四八〇名の来場者が美輪明宏氏にすっかり魅了された一時間半でした。

その他、本学教授大江田清志先生による「日本の経営の進化と国際化」と題する講演と一連のパソコン講座が本学の教員により四講座開催されました。

平成十二年度上半期の公開講座プログラムが確定致しましたので、下記のとおりお

伝えたいです。皆様、本年度も奮ってご参加下さいますようお願い申し上げます。

平成十二年度上半期公開講座事業一覧

◎ 教養月間

メインテーマ

「モノの豊かさから心の豊かさへ」

六月三日(土) 清田春夫本学教授

講演テーマ「科学の発展と人間の幸せ」

六月十日(土) 宮崎正孝本学教授

講演テーマ「ホメロロス、プラトンそしてアリストテレス―その魂をたどる―」

六月十七日(土) 会沢信彦本学専任講師

講演テーマ

「カウンセリング理論に学ぶ援助的人間関係」



六月二十四日(土) 藤嶋 暁本学助教
講演テーマ
「ネットのルネッサンス―気概と信頼―」
(いずれの講演も午後一時～三時)

◎ 文化講演会

テーマ: 「心の健康と安らぎ」

七月九日(日) 午後一時～三時半

講演者: 五木寛之氏

演題: 「日本人のこころ」

◎ 落語講座

九月二十三日(土) 午後一時～三時半

講演者: 林家一門 林家三平師匠

林家三平師匠

演題: 「話し方について」

能力開発と 社会生活の条件



函館大学学長
河村 博旨

① 読み、② 書き、③ ソロバン(計算)、④ スピーチ(弁説)、⑤ 人間関係の円満な処理。この五つの条件を一定のレベル以上で克服できる能力・技術修得。

これが修得できていれば、就職も転職も苦勞もなく可能となりそうです。

但し、① 読み (reading)、② 書き (writing) と ④ のスピーチ (speech) は、英語などの外国語も駆使して自由自在に実行可能な能力を修得していること。そして、② はペンでの書きも、ワープロでも自由自在にできること。

これだけの能力や技術を修得できている大学卒の学歴を有する人材は、まだ多くはいない。多分そうです。

英語などの外国語での① 読み、② 書き、④ スピーチという問題は除外すれば、大卒者なら誰でも可能な① から⑤ まででしょう。

① については、漫画やカラー写真ばかりのような雑誌しか読まない。② の書くことは、テストの時しか書かない。父母にも友人にもハガキや手紙の一通も書かない。電話ですませる。③ の計算は、金銭出納帳も収支のメモも書かないし、せいぜい飲食や

買い物の計算しかしないという程度。④ のスピーチは、講義中の私語や友人たちとの雑談なら、何とかできる。しかし、自己紹介や友人の結婚披露宴での友人代表のスピーチや発起人代表のスピーチも満足にできない、という人材は沢山います。

これは、教育の欠陥を示す証拠とも言えます。ペーパー・テスト偏重主義とも言える教育の欠陥です。多分そうです。

① の読むことは、黙読中心であり、朗読の時間は極めて少ない教育。② の書くことは、客観テストという建前上限られた文章しか書かないテストとなり、作文やレポートの執筆の回数も少ない。テキストの筆写もないという教育です。③ の計算は、大学受験のための数学で、日常生活では仕事上も私生活上も一生一度も利用することもない数学に傾斜し、分数やパーセント(割合)の計算も十分にできない人材は放置されたままの教育の場合もあります。

④ のスピーチは、正課としては大学でもあり得ません。課外では弁論部とか雄弁部として活発な活動をしている大学もあります。我々の函館大学では、弁論部という同好会も発足し、「実

践コミュニケーション論」として正課も新設し、原稿執筆から発声・話し方までの教育を実施しております。選択科目です。

② の「書くこと」については、弁論部での原稿執筆、教養セミナーや専門ゼミでのレポートや論文の執筆もあります。

さらに、軟式文芸部では、文芸誌も第四号まで発行され、次号の発行も予定されている由です。

⑤ の人間関係の円満な処理。これは、これまでの① 読み、② 書き、③ 計算、④ スピーチの四つの条件について上手に出来る能力や技術を修得できたのみでは十分とは言えないようです。

① 人間としてのマナーや礼儀作法の修得。② 道徳・慣習・社風・伝統のような曖昧なルール(社会規範)の遵守が自然に無意識にできること。要約すると「人の道と法に反しない行動(言動)」の自然にできること。③ 勤勉、正直誠実、謙虚、思いやり(愛)と奉仕の心、勇気と実践力のあること。④ 率先して苦しいこと厭なことも実行すべきことを実行する習慣の修得。こういうこと的重要性を痛感します。

海外のある経営者養成の大学院では、次のような点を重視する由です。

(a) cheerful (他人に好かれる魅力) (b) creative (創造力・工夫の能力) (c) leadership (指導能力) (d) stamina (持久力・精力)。この四つの条件を面接での重点評価ポイントとしている由です。そして、(c) のリーダー・シッ

プの内容は、(1) vision (夢・展望を示す能力)、(2) passion (真摯な情熱)、(3) decision (決断力) (4) action (実行力) の由です。こうした人材の育成の内容や条件について書いておきますと、学生諸君と共に学び修業せざるを得ないと自己反省し、自己評価せざるを得ません。父母や師や社会や神の恩恵を想起し、感謝して喜んで日々を訓練の日々であり、修業の日々とし、より多い社会への貢献に励み、父母や師や神や社会の人々の喜びの笑顔を見る時を想像せざるを得ません。

文章として書く程度の実行行為でも勇気と苦心を要します。父母や恩師や仲間と心の底から喜ばれることを毎日誠実に実際に実行することは、さらに勇気と努力と耐久力・忍耐力を必要とします。但し、これは我々自身の心そのまま成長している私自身の個人的な悲願かも知れません。

函館大学附属有斗高等学校

函館市湯川町2丁目43番1号 ☎(0138) 57-1381



有斗の文字に込めた教育理念 「信」こそ人の世の道しるべ

「如彼天有斗可人信為常」
— 天空の道しるべに「斗」す
なわち北斗七星があるように、

人の世の道しるべは信である。この古語にちなんで命名された「有斗高校」です。昭和十三年に設立された函館計理学校がその前身で、戦後の昭和二十三年に学制改革によって「有斗高校」へ改称されました。全国的には、高校野球で有名な甲子園大ではないでしょうか。甲子園大



会に春夏合わせて十三回出場。現役の近鉄・盛田幸妃投手をはじめ、三人のプロ野球選手を輩出しています。野球だけではなく、ラグビーも全国大会に十三回（八年連続）出場と常連校です。このほかサッカー、卓球部、水泳、陸上なども全国レベルで

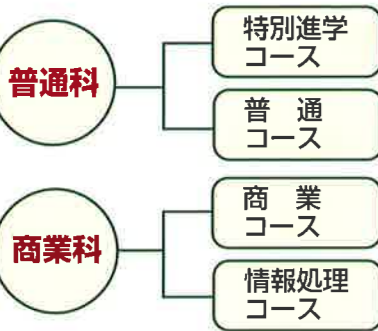
活躍しています。ボクシングの元WBA世界フライ級チャンピオン山口圭司さんも有斗高校OBです。文化系クラブでは、吹奏楽部が輝かしい伝統と成績を残しています。この吹奏楽部はマーチングバンドと言って、隊列を組みフォーメーションの動きをしながら演奏するスタイルです。北海道内では数が少ないですが、有斗高校は全国でも高水準の演奏レベルがあります。クラブ活動だけでなく、もちろん教育システムも充実しています。普通科と商業科に大きく分かれていますが、普通科の中に平成十二年度から「特別進学コース」を開設。また、通信衛星を使って予備校の授業を生中継するサテライト講座は、道内の高校としては初めて採用しました。年々、国公立・有名私大への進学者が着実に増えています。教育の基本理念は、野又学園の学園訓である「報恩感謝」「実践躬行」「常識涵養」「本校の教育活動は、すべてがこの学園訓の実践を目指すものです」と、安本文康校長は語っています。



安本文康校長



「ございます」「こんにちは」と元気に挨拶してくれることでも、十分に伝わってきました。



函館駅前にある老舗デパート・棒二森屋の前身、棒二荻野呉服店の古い資料が、このたび函大図書館（資料館）から見つかりました。荻野家文書は北海道立文書館で所蔵されていますが、その一部が欠けており、かねてから探索していましたが、ある時、荻野家について道の広報誌で紹介したところ、函大図書館にも荻野家の古文書があったという情報が寄せられ、文書館で調査に来ました。ダンボール箱に収納されていた帳簿類や書簡など五、六箱ありましたが、それぞれに歴史の匂いが溢れ、当時の商人を忍ぶ貴重な資料でした。文書館では、現在、その資料の保存のため、マイクロフィルムに納める作業を進めています。

函館の老舗商家の貴重資料 函大図書館から発見される



商業の発展の歴史がわかる函大資料館

さて、簡単に荻野家のご紹介をしましょう。荻野家は、現在の滋賀県神埼郡能登川町の出身で、享保期に北海道松前に渡り行商を始め、それで資産を蓄え函館に本店しました。その後、五代目の時に一時休業・帰国しましたが、六代目が明治九年に再び北海道で行商を始め、明治二十三年に函館で呉服店を開業。これが、現在の棒二森屋デパートにつながっています。今回、函大で発見された資料は、明治期から昭和初期にかけてのもので、

教職員異動

平成十二年四月一日

●学内異動

- 教授 若松 裕之（↑助教）
- 助教 田中 弘樹（↑専任講師）
- 助教 世良 耕一（↑専任講師）
- 特任教授 田中 三夫（↑非常勤講師）
- 特任教授 安東 璋二（↑非常勤講師）
- 特任教授 金谷 茂（↑非常勤講師）
- 特任教授 島崎 健二（↑非常勤講師）
- 特任教授 渡邊 英郎（↑非常勤講師）
- 非常勤講師 永野彌三雄（↑特任教授）
- 教務課長補佐 岡嶋 雅昭（↑教務係長）
- 就職課長補佐 干場 勝（↑就職係長）
- 教務係長 國安 秀之（↑本部長）
- 電子計算係長 竹山 久芳（↑函館ビジネス専門学校教員）

●退職

- 特任教授 小川弥八郎
- 特任教授 藤田 徹
- 特任教授 佐久間政弘
- 特任教授 鈴木 旭
- 特任講師 鮫川松五郎
- 用務員 本間 幸子



〔訃報〕
函館大学客員教授 蓮間從道先生（享年八十四歳）が入院加療中、病急変し、去る六月二日ご逝去されました。これまで先生にご指導いただきましたことに謹んで感謝し、心からご冥福をお祈り申し上げます。
（合掌）